

たまねぎの収穫体験に歓声



ふるさと交流だより

五月一三日(日)南あわじ市の倭文土井集落で玉ねぎの収穫を行いました。

当日は好天にも恵まれ、ボランティア四〇人の参加のもとにたまねぎの収穫に汗を流しました。

当集落は水稲が中心ですが、裏作には玉ねぎの栽培がさかんです。しかし、近年農家の高齢化が目立ち、放棄田すら懸念される状況になってきています。

そこで、地元では多自然居住交流拠点整備事業によって整備された「薫陶の郷」を活動基地とするNPO法人「ふるさと応援隊」を組織し、農村ボランティアを受け入れることにしました。玉ねぎは引き抜くのは簡単ですが、葉を切り取り、コンテナに詰め込み運び出すのが大変で、一〇アールの畑



に五〇人近くが入って昼を挟んで三時間近くかかりました。当日はとれた玉ねぎをいただくこともあって四〇人も参加がりましたが、六月、七月の作業日(第二日曜)には四人、一人と少なく、地元ももう少し参加してくれないかと期待をしています。八月の作業は第三日曜日に変更しております

発行者

農村ボランティア 支援事務局

(社)兵庫みどり公社
兵庫楽農生活センター
交流課
〒651-2304
神戸市西区神出町
小束野 30-17
電話 078-965-2651
FAX 078-965-2653

ですが、下記のとおり作業を行いますので、奮ってご参加下さい。新規の会員さんも大歓迎です。なお、バス等公共交通機関を利用される方は淡路縦貫道緑パーキングエリアまで送迎しますので参加ご希望の方は八月一六日までにNPO法人「ふるさと応援隊」〇七九九(四六)〇三〇一までご連絡下さい。

日時 平成一九年八月一九日(日)
午前九時～午後三時

集合場所 南あわじ市倭文土井
薫陶の郷

作業内容 一班 玉ねぎの切り落とし、出荷作業
二班 秋冬野菜(大根、カブ、人参など)の種まき

その他 自分で野菜を作りたい方には畝を提供しますので事前にご連絡下さい。(好きな種をご持参下さい)

申込み先 兵庫みどり公社楽農生活センター交流課

TEL 〇七八(九六五)二六五一

また、一月下旬には「かかしさん集まれin薫陶の郷」のイベントも計画しています。

各地区で始まった様々な活動を紹介します！

去る三月二十四日の新規会員登録集の説明会のあと、五月一三日に南あわじ市の倭文土井集落、五月二七日には丹波地域の今田、真南条上、葛野、東芦田の四集落、六月二四日には佐用町の庵、豊福、下石井の三集落を巡るバスによる現地説明会を開催しました。



倭文土井集落には四〇人、丹波地域には三五人、佐用町には一八人のボランティアの参加のもとに各集落を回り、地元の方から説明を受けました。その結果多数の登録を頂いた集落もあれば、登録が極端に少ない集落もあり、丹波市の葛野集落、佐用町の庵、下石井集落が改めて会員を募集することになりました。

集落紹介

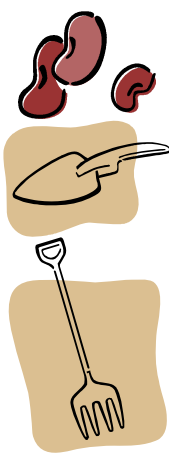
丹波市葛野集落

葛野集落は丹波市のほぼ中央に位置し、丹波大納言小豆の栽培の盛んな産地です。大納言小豆は表皮が薄く、煮ると指頭大になる

- ・ 煮詰めても、形がこわれやすい
- ・ 光沢が美しく、形が四角のようである
- ・ 糖分を含み粕が残らず、特に味が良い
- ・ 長く貯蔵しても、虫害が無く変質しない

といった優れた特徴を持っており、この地域の特産となっており、小豆の栽培は五月の土づくりから始まり、一二月の収穫まで除草、施肥、畝立、播種、病害虫防除等かなりの手間を要し、収穫も一莢一莢手でもぎ取り、筵に広げ

て天日干し、乾燥すればトウミに掛けてゴミを取り除き、カビや虫食いなどを手作業で選別し、篩にかけて粒を揃えるといった大変な作業が伴います。このような作業には多くの人手を要し、ボランティアの協力が大きな手助けになることは間違いありません。



佐用町庵集落

庵集落は佐用町の宮本武蔵ゆかりの平福地区より、山間部に広がる美しい農村風景が自慢の地域です。交通の便は中国自動車道を利用する場合は、佐用ICから車で一〇分、JRを利用する場合は智頭急行平福駅から車で五分のところに位置し、地域の特産は自然薯と黒大豆で、黒豆はオナ制もありません。また炭焼きの復活や、水車の復元を行い昔の農作業を体験して貰うイベントなども計画し

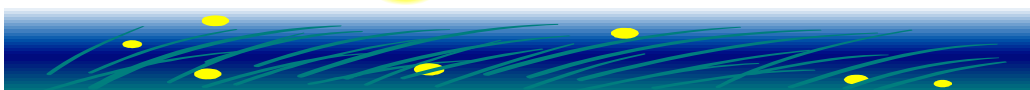
ています。ボランティアの作業内容としては、畦や水路の草刈りと管理、自然薯・黒大豆の植付けと管理、玉ねぎ・ジャガイモなどの栽培と収穫、耕作放棄田の管理、収穫祭の準備と手伝い、自然薯の販売、その他「ふるさとの風景づくり」活動の手伝いなど多岐に亘っています。ぜひ一度体験されてみてはいかがでしょうか。

今後の農作業スケジュール

8月	草刈り、水路管理	11月	収穫祭、自然薯の販売
9月	稲刈り	12月	玉ねぎの植付け
10月	枝豆の収穫・販売、秋祭り	3月	野菜等の植付け

ホタルを育ててみたい仲間が集合

会員投稿欄



「ホタル育成の里」ふるさとむら中村へ参加するようになって、はや五年目になりました。この中村集落は、兵庫県のほぼ中央部の旧神崎町中村区にあり、県下に五〇近くある「ふるさとむら」の中でも、阪神間からでも比較的遠くない地域であるということなのです。

次に、空気の良い自然の中で、現地の温かい人柄の方々と和気あいあいの中でホタルを育てるいろんな作業が楽しめることです。年に一度六月に「ホタル祭」を行います。三

月と五月のホタル水路の清掃に始まり八月にはカワニナ取り、一月にはカワニナの餌やり、と年間を通して作業があります。一年間育てたホタルが飛びかうのを見るのは、格別に楽しいものですよ。



その他、地元の夏祭りを始めいろんな行事にも参加させて貰い、交流を図っています。また、このふるさとむらの周辺には、グリーンエコー笠形やススキの峰山高原などの観光スポットもあり、日帰りでも宿泊でも楽しめます。

人と自然とふれ合いながらホタルを育てることは、とても心身のリフレッシュになります。ぜひ一度、体験されてみてはいかがでしょうか。

中村集落ふるさとむら会員

西宮市在住 桐山沙也

ふるさとむら中村集落からのお知らせ

カワニナ捕りと放流を下記のとおり行いますので多数の参加をお待ちしています。

日時	八月二六日(日) 一〇時～一五時
集合場所	中村ドリ ムホル (区公民館)
作業内容	午前中 カワニナ捕り 午後 ホタルの生息についてのお話 ホタル水路の清掃 カワニナの放流
参加費	無料
その他	
・服装	川や水路に入れる服装 長靴、軍手等
・携行品	弁当、お茶、タオル、雨具、 小雨決行とします。
参加申込み	兵庫楽農生活センター 交流課まで
締め切り	八月二一日(火)

田和地区の棚田交流人が 国土交通大臣表彰されました！

去る六月一五日、佐用町田和地区の棚田交流人がまちづくりの推進に功績があったとして、全国四二地区の中に選ばれ、国土交通大臣から表彰されました。

田和地区の棚田交流人は平成九年に設立されて以来、棚田を保全するために石垣の補修や草刈等のボランティア活動を続けながら、また農業を通じて都市と農村との交流をはかるなど、地域の活性化に大きく貢献してきました。

また、平成一七年八月一日に、兵庫県景観条例に基づく認定を受けた「棚田の里田和やか景観協定」を締結し、同地域の地域資源の魅力に気づかせ、保全の機運を盛り上げるなど、景観保全にも寄与しています。



農村ボランティアの一組織がこのような表彰を受けたことは、大変すばらしいことであり、このような活動が他地域の今後の模範となり、第二、第三の田和が生まれることを念願しています。

楽農生活ニュース

【兵庫楽農生活センターからのお知らせ】

直売所（十時～十五時）では地元産の新鮮な野菜とそれらを使った加工品の直売などを行っています。野菜の収穫体験、農産物加工体験、里山再生塾など、農業を体験いただけるイベントも行っています。季節により、内容が変わります。また事前の申し込みが必要ですので、センター（〇七八 九六五 二六五一）まで気軽にお問い合せください。

楽農レストラン「かんでかんで」（〇七八 九六五 二〇四七）でも新鮮野菜を楽しめます。ぜひ足をお運びください。
（水曜日休園。ただし、レストランは開いています。）

兵庫楽農生活センターのホームページが開設しました！

URL : <http://hyogo-rakunou.com/>

【編集後記】

『ふるさと交流だより』第六号』をお読みいただきありがとうございました。長かった梅雨も明け本格的に夏を迎えました。各地区で活動が盛んに行われています。熱射病・熱中症をさけるために、日よけ対策、十分な水分補給や休憩をしながら作業に当たってください。

この「ふるさと交流だより」では、地域情報・会員情報を掲載しています。ますます充実した内容にしていきたいと思っておりますので、皆様からの熱い情報をお待ちしています。